

放送大学同窓会 神奈川学習センター 支部会報

創刊号

発行：放送大学同窓会
神奈川学習センター支部
編集：総務委員会
責任者：大貫京子
発行日：平成2年12月19日

会報創刊によせて

神奈川学習センター所長 浜口 允子

同窓会神奈川支部の会報の創刊、おめでとうございます。十月の支部の誕生日も含めて、多くのかたが御努力が、このような形で実ったことに対し、衷心よりお慶びを申しあげます。

放送大学が開学してから5年半たち、社会人としての生活のなかで、電波を通じて学びつつ大学を卒業するという「偉業」が、すて

にあたかも普通のことでもあつかのうちに重ねられております。けれども、初心にもどって、入学から卒業にいたる過程を振り返ってみれば、これは矢張り、なまかなことではありません。その意味で、卒業された皆さんの今後のありようは、まさに刮目して見るべきものです。学生の期間は有限なものですが、そこで得たもの

を生かして、よりよく生きていくことは、誰にとっても終わることのない課題です。卒業された皆さんは、それを求める先駆者の位置にあります。現在はまだまだ少数ですが、後に続く仲間は今後毎年増えてゆきます。どうか皆さんが、この課題を共有するものとしての連帯感をもって同窓会を発展させていかれますように、またこの会報が、その仲立ちとなっていきますように、心から願ってやみません。

支部会報創刊の喜び

放送大学同窓会長

藤田 茂光

支部会報の創刊にあたり、一言ご挨拶を申しあげます。神奈川に同窓会をつくらうという話がでて、最初の準備委員会をひらいたのは、昭和六三年六月十一日のことでした。このことが大学側にも伝わるころとなり、甲田学長より、「折角の同窓会であるから全学習センター台のものをつくって欲しい」という意向が伝達されて参りました。これを受けて、準備委員会を全学習センター台に拡げ、八

月二十七日には、拡大委員会を開催しようとしていた矢先、中心となつて活躍されていた田口博司さんが急逝されてしまいました。このことはまことに遺憾の極みでありました。このようにいろいろな曲折がありました。平成元年三月十一日には同窓会が設立され、そして本年の十月二十日には大望の神奈川支部が誕生致しました。私たちが生きているこの世界は、

対象に働きかけただけ確実に反応を示してくれる世界であります。そのことは私たちがこの大学に学びたいと思つたときに、それを成し得たようにであります。同様にこの器に赤いご飯を盛ることも牡丹餅をもることも正に会員の意志次第であります。友達が欲しい、勉強会をつくりたい等、いろいろな想いをめぐらしておられるかたがおられることと思ひますが、どうぞこの会を自らのものとして積極的に活用されることを願ひする次第であります。

学ぶ喜びと学習力を結集して

神奈川学習センター支部会長 別所 敏明

この度、神奈川学習センター支部の設立について、皆様のご理解とご支援により十月二十日に発足いたしましたことをご報告申し上げます。放送大学同窓会の同窓会設立にあたっては、平成元年八月に当センター所属の卒業生で、今は亡き田口氏が主宰者となり、設立協力要請の呼びかけによる実質的な旗揚げをもって今日に至った経緯がございます。私は、このような背景を踏まえての発足であることに強い責任と自負を感じている次第です。

さて、私たちは生涯学習の一貫として放送大学で共に学びそして卒業しましたが、同窓会が発足したことに伴い、新たに生涯学習の理想の実現の実践の場が生起したと言えるのではないのでしょうか。会員あるいは母校はもとより社会に向けて実のある活動が本同窓会の使命であると思えます。例えば国際社会でのわが国の世界貢献、環境保全問題、国内の高齢化現象、福祉問題等と多方面で私たちの活動できる分野は数多く存在してお

ります。これらの社会的環境をバックグラウンドとして、私たち一人一人の力を結集して社会に寄与可能なテーマを模索し、確実かつ継続ある活動を実践することは、同窓会活動の一つの目標ではないかと考えているところでございます。最後に、会員の皆様には活動の紹介、報告についての情報を逐次提供して参りますが、積極的に活動へ参画を頂き、皆様の生涯学習の理想の実現に役立てて頂くことをお願いいたします。本会報創刊のご挨拶に代えさせて頂きます。

支部設立総会開かれる

さわやかに晴れ上がった去る十月二十日(土)午後二時より、神奈川学習センターに隣接する国際交流会館五階会議室において、放送大学同窓会神奈川学習センター支部設立総会が開催されました。設立準備委員会の別所敏明代表より挨拶と経過報告が行われた後、議案の審議が行われ、すべてが議案のとおり可決承認されました。なお、坂井助教、藤田同窓会長より来賓の祝辞を戴きました。

設立総会報告 (会則第四章第十四条による
会員への通知)

日時 平成二年十月二十日

午後二時～三時十分

場所 国際交流会館 五階会議室

会員数 一一九名

出席者数 三二名

I 決議事項と結果

① 第一号議案 会則案

原案(送付済み)の通りに可決

II その他

記念品として、学習センターに対し青磁花瓶を贈呈した。

第二号議案

平成二年度活動計画案

(平成二年一〇月二〇日)

～平成三年三月三十一日)

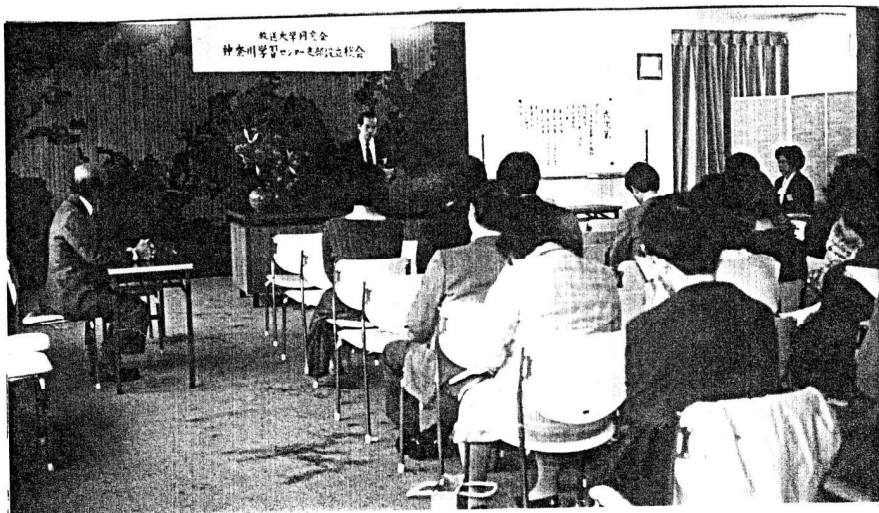
◎会報の発刊(平成二年一二月)

◎賀詞交換会の参加

平成三年一月

◎会員名簿の発行

平成三年二月



平成2年度 収 支 予 算 (案)
(平成2年10月20日～平成3年3月31日)

(金額単位：円)

科 目	予算額	摘 要
1. 収入の部		
(1)本部助成金	278,000	50,000+(2,000×114名)
(2)賀詞交換会費	0	
(3)寄 付 金	163,000	
(4)雑 収 入	0	
収 入 合 計	441,000	
2. 支出の部		
(1)活 動 費	22,500	50 × 150部 × 1回 100 × 150部 × 1回
会 報 費	(7,500)	
会 員 名 簿 費	(15,000)	
賀 詞 交 換 会 負 担 金	(0)	
(2)事務局運営費	92,800	(200+70+82)×150部
会 議 費	(10,000)	
交 通 費	(0)	
通 信 費	(52,800)	
振替手数料	(5,000)	
消 耗 品 費	(15,000)	
器 具 備 品 費	(0)	
交 際 費	(0)	
慶 弔 費	(0)	
外 注 費	(10,000)	
雑 費	(0)	印刷、その他
(3)予 備 費	325,700	
支 出 合 計	441,000	

役 員 紹 介

〔会長〕 ☆別所敏明
〔副会長〕 嶺田勝典
〔事務局長〕 加藤あいし
〔副〃〕 五十嵐一成
〔会 計〕 村上美砂子
 小山佐枝子
 龍造寺 寛

〔理事〕

(総務)

大貫京子

〔理事〕

(企画)

稲葉恒夫

〔監事〕

小川みのり

〔総務関係者〕

奥村高志

市村恭子

(規約)
☆小山義広
☆松岡和正
☆鈴木照子
☆桜田幸子

(注) ☆本部役員及び理事



同窓会入会のお知らせ

まだ入会なさっていない方、同窓会に入会なさいませんか。
入会なさる方は、郵便振替用紙に、氏名・性別・住所・電話番号・卒業年月・卒業時の専攻・指導教官名・学生番号・所属学習センターを記入のうえ、

振替口座 東京0133538

放送大学同窓会事務局宛

終身会費一万円を送金して下さい。

※これで、本部の会員になると同時に神奈川学習センター支部の会員ということになります。

記念品として贈呈した花瓶



全員で盛り上げた同窓会設立祝賀会

企画委員長 稲葉 恒夫

祝賀会場は、総会会場と同じ国際交流会館五階ホールで催された。会場は、当日、神奈川県学習センター支部同窓会より学習センターに寄贈した青磁の花瓶、それに飾られた生花が中心に配置され、その周縁に和・洋・中華の料理が程よく盛り付けられたテーブルが囲んだ。

出席者はテーブルの周囲を取り

囲み、初代の神奈川県学習センター所長であられた宮代教授の祝辞を受け、前所長宮代教授のお祝いの言葉と乾杯の音頭によって、祝賀の宴は始まった。会には、埼玉学習センター支部会長、そして千葉学習センター支部会長もお越しくださり、それぞれ祝辞と各学習センター支部間の交流を深める連帯の挨拶を述べられた。BGMの流れるなか、諸先生方の学習センター職員、会員各位の

和やかな懇親と歓談がつづき、学習センター事務長の祝辞や、職員の方々からの祝辞、さらには在校生のサークル活動代表の方々にも祝辞を頂戴した。会員の挨拶や、学習の苦労話なども加わり、親睦の輪は一層の広がりをみせたが、これから更に盛り上がりという時になつて残念なことに会場の借用時間がなくなり、最後に全員で放送大学校歌を斉唱し、再会を約して解散した。

設立総会及びパーティーの様を写した写真を一月六日から二週間、神奈川県学習センター一階ロビーに置いておきますので、御自由にご覧ください。

写真展示のお知らせ

会報にネーミングを！

この会報に名前を付けていただけませんか。

アイデアがありましたらハガキに会報名を書いて、神奈川県学習センター内、放送大学同窓会神奈川県学習センター支部宛にお寄せください。楽しみにしております。

編集後記

『放送大学同窓会神奈川県学習センター支部会報』創刊号をお届けします。

会報発行準備に集まったメンバーは、いずれも素人同然の人達ばかり。けれども作業が進み始めると、それぞれがその持てる力や個性を大いに発揮し出し、気が付くと不思議にも一つのものが出来上がっていたのです。

とはいえ、まだまだ未熟な点多いことと思います。会報及び支部活動についての皆様のご意見・ご要望をお待ちしております。

最後になりましたが、皆様、良いお年をお迎えになられますようお祈り申し上げます。

神奈川県学習センター支部設立準備および総会収支決算報告

(平成2年11月30日現在)

(金額単位：円)

科目	予算額	摘要
1. 収入の部		
(1)本部助成金	50,000	各支部一律給付金
(2)設立総会会費	105,000	3,000×35名
(3)雑収入	65,000	設立総会来賓祝金 7名
収入合計	220,000	
2. 支出の部		
(1)設立総会費	122,999	
祝賀会費	(109,457)	
交際費	(10,000)	車代 10,000
雑費	(3,542)	スタッフ写真 2,306 コピー代 1,236
(2)設立総会準備費	74,443	
事務用品費	(14,190)	
通信費	(23,263)	設立総会通知等
雑費	(36,990)	
支出合計	197,442	
収支差引残高	22,558	

(但し、収支差引残高は収支予算に繰り入れ)

